

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470201290
法人名	有限会社 コーブンシャ
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家
所在地 (電話番号)	四日市市平尾町78-12 (電話) 059-325-3771
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 12 月 17 日(水)

【情報提供票より】 (H20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8畳50,000円 6畳45,000円 2人45,000円	その他の経費(月額)	11,000 円～	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,400円				

(4) 利用者の概要(11 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2			3 名	
要介護3	4 名	要介護4			名	
要介護5	名	要支援2			名	
年齢	平均	87 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あこず内科循環器科クリニック 大歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都市部から離れた農村地帯を思わせる集落の中にあり、周辺に田畑が多く静かなゆっくりした空気を感じられる事業所である。旧家を改造した建物で、和室で畳の部屋もあれば、洋室で板張りの部屋もあり、また1階と2階がありエレベーターがないので2階に上がるには階段を上らなければならない。これが非常に良いハビリティになっている。台所に面した食堂兼居間には利用者が自然と集まる雰囲気があり、大きな「家族」を思わせてくれる。職員が「同じ顔が迎えてくれたり送ってくれるので、自分の家の感じがする」と言うくらいアットホームを感じさせてくれる事業所である。職員・利用者共に明るく元気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価後、改善項目について話し合い、改善計画等は作っていないが、できるところから取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は職員全員で取り組み、管理職がまとめる仕組みをとっており、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	平成20年1月に第1回が開催されているが、その後の開催につながっていない。運営推進会議は、地域の理解と支援を得る貴重な機会である。定期的に開催し、事業所のサービスの質の向上に活かされることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月1回「ほのぼのだより」を発行し、金銭管理報告と同時に家族宛に送っているし、家族の訪問時になんでも言ってもらえるような雰囲気作りを意識している。頂いた意見に対しては職員全員で検討し運営に反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所設立当初から地域とは連携を密にとっており、自治会への加入はもちろん地域の集会所で毎月開催される催物には積極的に参加しているし、日常的にも近隣農家から野菜等を頂いたり、地域との関係作りを大切にしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく・・・」を理念に、設立当初から地域とはつながりを持っていたが、更に意識するため「地域とのつながりを大切に」を理念に加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「グループホームなんだから、もっとゆっくりね！」というように、毎日のケアの中に理念を取り入れ実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも入っており、毎月地域の集会所で開催される歌やカラオケ、踊り等の催物には参加しているし、自治会の広報・回覧も回ってきている。また日常的にも畑で採れたという野菜類を持ってきていただくなど、地域との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、管理職がまとめる仕組みを取っており、職員・管理職ともに評価の意義を良く理解している。前回評価の改善項目については、特に詳細の改善計画等は作ってないが全員で検討し、できるところから改善するように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年1月に第1回運営推進会議が開催されているが、その後の定期開催につながっていない。	○	運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善課題を話し合う、地域の理解と支援を得る貴重な機会と考える。格式張らずに気楽に定期的開催し、事業所のサービスの質の向上に活かされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は空き情報等用件があるときのための交流だが、法人代表が毎月発行の「ほのぼのだより」を持参したりして、日頃の情報交換を頻繁に行っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時は利用者一人ひとりの様子を個々に伝えているし、毎月の金銭管理の報告や「ほのぼのだより」を家族に手渡したり送ったりしている。このたよりに職員の異動等も載せている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問は多く、直接意見や不満・苦情を言いやすい雰囲気づくりに努めているが、不満や苦情は少ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者へのダメージを充分承知しており、異動がある場合は交代期間を1ヶ月程取る等の、利用者にダメージを与えないよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内教育として、目前の資格試験を目指した研修が計画されているが、長期的視野の職員の段階に応じた育成計画にはなっていない。	○	職員の自己啓発や資格試験の受験対策も非常に大切なことで、ぜひとも継続をお願いしたいが、更にもう一段上への期待として、職員各人に対し、将来の育成計画に沿った研修の機会を与えられることも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に加入し、情報交換しているし、各種の研修で他事業所との意見交換も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人に事業所を見学してもらったり、職員が本人宅を訪問し本人の部屋を見せてもらったりと、納得の上での入居に努力している。またできるだけ雰囲気に慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらえるよう、数日間の体験入居ができるようにもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の暮らしや苦労してきたこと、料理の作り方など、人生の先輩としていんなことを教えてもらっているし、喜怒哀楽を共にした生活をしながら、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から思いや暮らし方の希望や意向の把握に努力しており、把握したことは職員の連絡ノートに記入し、みんなの認識になるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況を把握し、本人、家族、主治医の意見や希望を聞き、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで利用者全員について変化の有無を確認しているし、3ヶ月毎に詳細検討し計画の見直しをしている。利用者の状態の変化に応じての随時見直しもやっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お彼岸のお墓参りや家族ができない時の病院の送迎、外泊、「なばなの里」などの観光地へ出かけたりと、本人や家族の要望には柔軟に対応するよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としており、現在5人の利用者が協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族に、重度化した場合や終末期の対応についての事業所の姿勢を説明している。事業所の構造上、車イスの利用は困難であり、また医療的なこともできないので、他施設等を紹介している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩であり、一人ひとりの対応に気配りしており、特に「言葉かけ」には特に注意をしている。また個人情報や書庫に入れて保管したり、不要な書類はシュレッダーにかけるよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、日々その人らしい暮らしができるよう、それぞれ個々人の希望に沿って支援している。調査日当日の昼食も、早く食べ終わる人もいればゆっくりゆっくり食べている人もいて、理念どりの「ゆっくり」した空気の流れを感じた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普通の家庭のように、朝冷蔵庫にあるものを見て「さあ、今日は何食べよ」と相談し、1日のメニューが決まる。買物や調理を手伝える人は少ないが、食事時は職員も一緒にテーブルで食べており、にぎやかに会話をしている。出来る人はテーブル拭きや後片付けを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきだが、希望があれば毎日でも入れる。利用者各人の希望に沿った時間が前提だが、午前中に入る人が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器やテーブル拭き、テーブルの片付け等、役割が決まっている。又生活歴やその人の力に応じて、畑仕事や草抜き、カラオケや散歩と楽しみごと、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭での日光浴や畑仕事の他、隣接した公園に出掛けたり、近隣への散歩やドライブと日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者のうち4人に徘徊があり、玄関の扉をガチャガチャさせたりしている。玄関は建物の構造上、目の届き難いところのため事故防止の目的で、現在は鍵をかけている。	○	管理者・職員とも鍵をかけることの弊害は良く理解されている。利用者の動きには即対応しており、利用者による鍵による弊害は少ないと思われるが、常時玄関に鍵がかかっていることの心理的な不安・閉塞感等について、今一度考えていただくことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	セコムの火災報知装置が設置されており、連絡後十数分で駆けつけてもらえるようにはなっている。避難訓練は、昨年は実施されたが、今年はなされていない。	○	地震災害がいつ起こっても不思議でないとされており、日頃からの災害対策・訓練が必要である。また災害の場合、職員だけの動きには限界があり、地域住民との連携を図り、協力体制を築いていくことも必要である。運営推進会議を通じての自治会や地域の人々の協力を得られるような働きかけをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人に合った栄養バランスになっているかは、栄養士による分析で把握しているし、水分摂取量もペットボトルを部屋に持ち込む等、水分確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が良く集まる台所に接した食堂兼居間は、利用者にとって広過ぎず狭過ぎずのちょうど良い広さで、職員と利用者の格好の団欒の場になっている。壁には家庭的な装飾品の他、季節の花も飾られており、暖かい雰囲気が感じられる。また南に向いた部屋の広縁には、大きなソファーがおいてあり、寒い日などは日向ぼっこをしながらゆっくりと過ごせる場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は1階と2階にあり、畳の部屋と板の間もあり、床の間についている部屋もある。どの部屋にも大きなクローゼットがあり、タンスや衣装箱は全てその中に収納されるため、比較的スッキリしている。できるだけ今まで使い慣れた家具類を持ち込み、利用者の好きなように配置してよく、各居室ともそれぞれ個性的な居心地の良い部屋づくりがなされている。		